

食料産業局長賞

(あずまちょう)

東町漁業協同組合 (鹿児島県長島町)

【主な品目】

養殖ブリ

【主な輸出先国・地域】

北米・EU・アジア

【輸出取組の概要】

- ・1982年の米国向け輸出を皮切りに、2003年には養殖魚で初めてEU諸国へ輸出するなど世界29か国に輸出。
- ・養殖ブリにおいては全国で初めてHACCP認証を受け「安心して安全な品質の高いブリ」をラウンド、フィレ等で、日本食レストラン等の寿司ネタ、刺身商材として世界へ提供。

【輸出実績】 (昭和57年から輸出開始)

	輸出額(万円)	輸出量(t)	出荷時期
平成28年度	(概算)136,500	(概算)723	通年
平成27年度	189,000	1,094	
平成26年度	165,000	1,103	

輸出に取り組んだきっかけ

- ・当時、ブリ養殖が増える傾向にあったため、一元集荷・全量共販出荷体制を確立し、国内販売が順調に推移していた。更に増加することを見込み海外への販路を模索した。
- ・年間を通じて安定供給できること、3年魚の大きなブリが米国で好まれたことなど、当組合のブリ養殖環境に合致したところも多く、積極的に輸出に取り組み始めました。

取り組む際に生じた課題

- ・養殖ブリの海外輸出の事例が無く、輸出に関する情報が不足していたり、取引先への養殖魚の説明はもちろん、養殖漁業について理解してもらうことからのスタートであり、大変苦慮しました。
- ・海外は旬が無く年間を通じ安定した品質が求められ、鮮度保持の専用の冷凍設備も備えておらず、加工場もなかったため、品質管理にも苦慮しました。



夏場向けに生産された
「早生鰯王(ぶりおう)」



「鰯王」刺身



HACCP認定の加工場でフィレ
加工された「鰯王」

生じた課題への対応

- ・ 展示会等への出展によるPRを行うと共に、組合独自の「ブリ養殖管理基準書」を策定し、本基準書に沿って生産者が自らの飼育情報を養殖日誌に記録し、その情報を漁協で蓄積してトレーサビリティシステムを確立しました。
- ・ 種苗・生簀・漁船・餌(オリジナル飼料)・病気の管理等を徹底管理し、稚魚から出荷まで一貫生産管理体制を構築しました。
- ・ EUはじめ各国の輸出水産物施設認証の登録を進めました。

対応の結果

- ・ 平成10年全国で初めて養殖ブリ加工場HACCP認証、平成15年対EU輸出水産物施設認証、平成17年対中国輸出水産食品取扱施設認証、平成19年対ロシア輸出水産食品取扱施設登録など、世界基準の安全性と品質管理技術を確保しています。
- ・ 国内外向け加工品について徹底した衛生管理を行っており、その結果、品質・安全性から海外市場で高い評価と信頼を得ています。

今後の課題・展望

- ・ 未輸出国の情報を収集しながら、積極的な営業展開を図り、更なる輸出に向けた万全な体制を築きます。
- ・ 安心・安全な「鰯王(ぶりおう)」ブランドを世界へ発信し、平成31年度までに年間50万尾の輸出を目指します。



展示会出展によるPR活動の実施



「鰯王定食」長島大陸市場食堂



オリジナル飼料「鰯王」



【活用した支援・施策】・6次産業化推進整備事業

・6次産業化ネットワーク活動整備交付金

【ウェブサイト】<http://www.azuma.or.jp/>

【連絡先】担当者名：総務部長水口、TEL:0996-86-1200